

平成 27 年(2015 年)兵庫県地域間産業連関表について

1 概 要

- (1) 地域区分 兵庫県及びその他地域（兵庫県を除く 46 都道府県）
- (2) 対象年次 平成 27(2015)暦年
- (3) 部門分類 平成 27 年兵庫県産業連関表（地域内表）の部門分類に準じる。
- (4) 表の形式等
地域間非競争移入・競争輸入型で、価格評価は実際価格による平成 27 年生産者販売価格
- (5) 作成する統計表
39 部門表（取引基本表、投入係数表、逆行列係数表）
地域産業連関表の分析ワークシート

2 地域間産業連関表とは —地域間の生産波及効果の計測が可能—

地域産業連関表には、地域内産業連関表と地域間産業連関表の 2 種類の表がある。

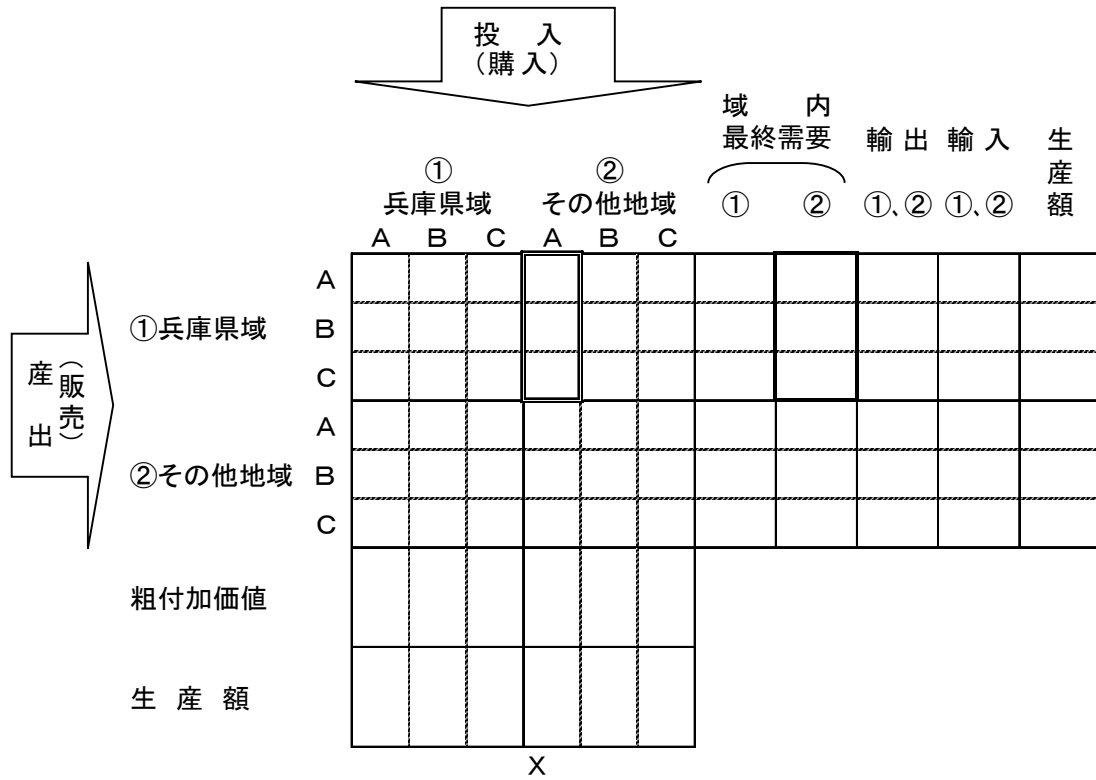
地域内産業連関表は、特定の地域における一定期間の財・サービスの取引を記述したものであり、この表を利用した分析では、当該地域内における取引関係に限定される。

これに対し、地域間産業連関表は、同時に複数の地域（兵庫県では兵庫县域とその他地域に区分）を対象とした表であり、当該地域だけでなく地域相互間の財・サービスの取引関係を記述したものである。具体的には、地域内産業連関表では、国内他地域へ供給した財・サービスは「移出」として各財・サービス毎の総額が表章されているのみであるが、地域間産業連関表では、各地域で生産された財・サービスが“どの地域のどのような産業または最終需要がどれだけ消費されたか”が表示されている。

この地域間表を作成することにより、地域間の産業別交易構造などが明らかになるだけでなく、地域内産業連関表では分析することができなかった地域間相互依存関係を通じた各種の地域間波及効果分析を行うことが可能となる。例えば、仮に兵庫県で設備投資が行われたとすると、地域内産業連関表による分析では、その設備投資に必要な財のうち兵庫県内から調達（県内生産）された部分についてのみ県内生産波及効果が計測されるに過ぎない。この設備投資に必要な財の相当部分が県外からの移入によると、県内はさほど大きな生産波及をもたらさないことになる。ところが、兵庫県が移入した投資財を生産する側（その他地域）では、その投資財の生産のために原材料が必要で、その原材料を兵庫県から購入するかもしれない。その結果、兵庫県は、その他地域向けに新たな原材料移出需要が発生する。

このように、兵庫県で発生した投資需要に対し、県内から投資財が調達されなかったとしても、県内はもとより各地域の生産を誘発し、それがまた兵庫県の生産を誘発するといった具合に次々に波及していく。このような地域間波及の結果を織り込んだ分析は、地域間産業連関表の作成によって初めて可能となるものである。

兵庫県地域間産業連関表のイメージ



注) 産業連関表は、表をたてに見ると、最下欄の生産を行うために要した費用構成（投入）を表し、横に見ると生産された財・サービスの販路構成（産出）を表している。

地域間産業連関表では、費用構成及び販路構成について、生産した地域及び需用される地域が異なると、あたかも異なる財・サービスとして表示しているものである。

例えば、②地域の A 部門をたて方向に見た場合、A部門は各地域の各産業から様々な原材料等を購入し、Xの生産を行っているが、 部分はそのうち①地域の産業から購入（移入）した額を示す。

最終需要についても同様で、②地域の 部分は②地域の最終需要を満たすために、①地域から供給（移入）された財・サービスを示す。

なお、表頭と表側が同じ地域で囲まれた正方形の部分は、自地域生産分の自地域供給分であるが、この部分にはその地域で消費された輸入品も含まれるので、注意を要する。